

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295400077		
法人名	あかり株式会社		
事業所名	グループホームあかり 東ユニット		
所在地	静岡県島田市宮川町2349-9		
自己評価作成日	令和5年 10月 31日	評価結果市町村受理日	令和6年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jrvoynoCd=2295400077-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jrvoynoCd=2295400077-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年11月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

3年余のコロナ禍は、入居者様の生活の活性化を弱めがちでしたが、その中で日々の体操、リハビリ、レクリエーションに重点を置いてすごしていました。徐々に面会時の接触や、外出が出来てきています。ご家族にも安心感を持ってもらえるように交流会議も再開出来るまでになりました。月2回の作業療法士の個別指導、ケアマネの個別プランの説明も丁寧に行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

通所に始まり地域に密着したサービス開始から15年、運営推進会議は地域代表、家族、医師、行政といったメンバーに支えられ、災害対策における自主防災組織との連携も堅固で、法人が培ってきた家族や地域とのつながりは揺るぎないものとして根付いています。ビジネス用SNSを取入れたことで、利用者の状態変化に応じた危機意識を職員と多職種で共有でき、リスクマネジメントに活かすとともにチームワークにも役立っています。押し寄せる重度化の波に、仲間の声と職員のあたたかい手がすぐ届く馴染みの場所を終の棲家とし、限られた時間を家族と過ごす姿は日常に溶け込んで穏やかでもあります。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員入社時に文書にて伝え共有している。</li> <li>又、日々の業務の中での振り返りを図っている。</li> <li>・指導職員を通じ日々伝える努力をしている。</li> <li>・毎月の内部研修でも伝えている。</li> </ul>	<p>新人研修では理念とともに自立支援、質の高いサービスの提供、法令の遵守、守秘義務などを謳った「倫理綱領」を示して意識づけています。管理者はその言葉が実践につながるよう折に触れて伝えるとともに毎月の介護計画の見直しを振り返りの機会としています。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>町内会に所属し会費納入、回覧板、年2回の防災訓練、公会堂のイベント等に参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ、掲示板などで施設のイベントのお知らせをしたり、近所の商店へ買い物などを日常的に行っている。</li> </ul>	<p>新型コロナウイルス感染症が5類移行後に事業所内で陽性者が確認されたため、表立った地域交流はおこなえていません。回覧板で地域の情報を入手し、年2回の地域防災訓練には事業所防災委員2名が参加して協力関係を維持しています。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>での説明・講座の依頼には積極的に応じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子で乗れる介護車両の貸し出しを社共との連携で行っている。</li> <li>・介護相談には常に応じている。事業所連絡会には参加している。</li> </ul>		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>ご家族、地域自治会、行政の意見を参考に、改善できるところは行う様に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携して下さる医師、歯科医師が有り、毎回の出席で提案や意見を頂き参考にしている。</li> </ul>	<p>3月より通常開催し、さまざまな意見交換がなされていることを議事録から確認しました。感染症予防対策には、「近距離でも面会は屋外で」「空気の流れを考慮して風上に利用者を」との貴重な助言を医師からもらえ、面会時のルールとして取入れています。</p>	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の担当者とは折々に出向いたりTEL/FAXでの連絡、相談を行っている。運営推進会議への参加、介護相談員の訪問等受けています。</li> <li>・ここ数年のコロナ禍の中で情報共有、薬品物品の供給等感染時の対応の指導等</li> </ul>	<p>18時から開催している運営推進会議にも毎回出席が得られ、事業所連絡会では各事業所の現状報告とともに情報交換の場として運営に役立っています。受入れを再開した介護相談員からは、利用者との関わりで気づいたことが報告されています。</p>	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に拘束しない理念のもと、研修への参加や個別ケアの実践、拘束感のないケアを行っている。</li> <li>・言葉の拘束について、特にゼロを目指す。</li> <li>・拘束委員会を3ヶ月毎に実施、職員への周知を行っている。</li> </ul>	<p>身体拘束適正化委員会では自己点検シートの記入をもとに自らのケアを省み、身体拘束適正化への理解を深めています。また、個別事例検討では周辺症状の理由を探り、症状が起こりにくい環境を作ることで穏やかな生活ができることを確認し合い実践しています。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部、内部研修を通じて学ぶ機会をつくり、知識向上、レベルアップに努めている。</li> <li>・ヒヤリハット報告は積極的に行い未然に防ぐようにしている。</li> <li>・職員との面談を通じてストレスチェックを行っている。</li> </ul>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見人制度」の研修で更に、理解を深める事が必要。後見人への折々に言い、本人の希望や現況を伝え本人の心の安定に繋がる話し合いをする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時にわかりやすい言葉を使用して説明を行い、署名を頂いている。 ・家族カンファ時にも、不明点などを聞き、都度説明を行っている。 ・重要事項変更の折は全ての家族に説明をし、署名を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議を開き、全員のご家族にお知らせしご意見を伺うようにしている。 ・一年に一回家族へのアンケートを実施し、意見の把握に努めている。	運営推進会議には常に複数の出席があり、忌憚ない意見が寄せられている議事録を視認しました。現在面会制限は緩和されていますが、四半期ごとの「あかり通信」と、毎月更新するホームページへ写真を掲載して平穩無事を知らせています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者会議(施設長、管理者) ・ユニット会議・個別面談 ・カンファレンス ・グループラインにて全員へのお知らせ、個別な意見の把握を適宜行いオープンな関係づくりに努めている。	社内コミュニケーションツールとしてビジネス用SNSを取入れ、報告・連絡・相談をはじめ、利用者の状態変化に応じた危機意識を多職種で共有し、フロアを離れる際には職員が互いに声をかけ、両ユニットの協力体制を強化しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・資格取得に向けての協力(有給利用、受講費支給)をしている。 ・税理士、社労士の関与により助言等により適切な整備を図るよう努めている。 ・適切な内部規定を作成し整備するようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部講師(行政、社協、業者)を招いて職員研修を行っている。 ・定期的な面談や個別相談に柔軟に応じ、希望に添うようにしている。 ・指導者を配置し、ケア方法を職員に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・コロナ禍の影響で実績は少ないが徐々に近隣の施設との交流で、制度や研修、ケアについての情報交換に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・環境に早く慣れていただく為に、ケアプランの目標に沿ったケアを個別に丁寧に行い、「スタッフや利用者との関係を努めている。 ・職員の連携でいつも穏やかに安心できる環境の維持を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族との面談を丁寧に行い、満足いく聞き取りを心掛けている。 ・急変し事故発生時のご家族への連絡方法について確認し、ご家族の安心につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・在宅とのケアマネと連絡を取り、入居前に情報を得るようにしている。 ・本人、ご家族との面会を丁寧に聞き取り、又ケアマネの情報と合わせ十分なアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活者としての視点で、その方のじょくじ作りや洗濯量等を一緒に行う事で、共同生活の一員として過ごしてもらうよう工夫している。 ・一日も早くなじみの関係になれるように、常に寄り添うケアに努めている。。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人とご家族様の間にあるものを理解しながら、体調不良や受診時に家族と連絡を密に取っている。 ・ご家族と主治医との関係を大切にしている。 ・看護師とケアマネが中心となり主治医と情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ユニット同士の利用者との活動もあり、同じ町内だった方との交流をしたりしている。 ・昔の地域の産業(木材)の写真、かつての大井川の写真などを飾り話題づくりに寄代している。	面会は予約制、時間は10分程で2名までとし、マスク着用と体調確認のチェックシートを継続しつつ、エントランスで座って話せるスペースを確保しています。利用者同士、近所や顔見知りであることも珍しくなく、回想法で話が弾む光景も多々あります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士のコミュニケーションの為に、レクリエーションや生活の作業を職員も一緒に行っている。 ・コミュニケーションの様子を把握し、孤立しがちな方への個別ケアに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院や移転先への情報提供を行い支援している。 ・亡くなられたご家族の通夜、葬儀に伺い、共にお見送りさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・エグゼクティブ会議などを活用し本人の一言一言を傾聴し実現化している。 ・個別ケアとして外出をできるだけ実施している。 ・利用者様本人が自らの思いを訴えに事務所へ来ることもある。 ・事務所を介し本人の個別な訴えをしっかりと	「外に出たいよ」「甘いものが食べたい」といった毎日のつぶやきを聞き逃さず、一人ひとりの満足感を高めています。要望への対応が前向きで迅速なことは、利用者が直接、代表や管理者、事務職員が常駐する事務所まで赴く姿からもうかがえます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・できるだけ細かな聞き取りでアセスメントを行い、把握するよう努めている。 ・家族の面家事、ラインでの連絡時に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・現状維持の為に活性化を前向きに働きかける様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員一人一人からの利用者様の問題点、課題点を指導者よりあげてユニット会議内のカンファレンスにて確認を行い、介護計画を作成し、内容を共有している。	半年ごとに見直しをおこない、利用者担当職員による介護計画のチェックをもとにカンファレンスで職員意見を集約し、介護支援専門員が書面化しています。課題整理総括表を通じて利用者のニーズや課題のもととなる要因が整理された介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日常に申し送り、カンファレンスの実施で職員間の共有を深めている。 ・業務ノートなどの活用もしている。 ・現場からの情報を密に行い計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・日光浴、外出、工作、行事等の工夫をしている。 ・体操、マッサージ、足浴、リハビリなどで浮腫や筋力低下の予防などの個別ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・作業療法士の受け入れ、潤いのある生活を目指している。 ・コロナ感染の状況が落ち着いた場合は、ボランティアの受け入れを計画していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・看護師2名非常勤で配置している。 ・島田市の医療機関との関係も連絡票を用いて連携を図っている。 ・基本は家族受診だが、事情によって受診の代行は行っている。	在宅の頃からのかかりつけ医を全員が継続し、家族が受診支援していますが、重度化した場合は往診対応できる医師への変更をお願いします。受診時に看護師が作成してFAX送信する「連絡票」には医師からもコメントの記載があり、連携が図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・平日9:00～13:00まで看護師に医療的処置の指導を得られる体制を作っている。 ・緊急的な場合は連絡が取れる同意を得ている。 ・医療機関との連絡も連絡票を用いて連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時情報提供票を用いて、病院のMSWを通じて支援できるようにしている。 ・受診時には連絡票を用いて連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・連絡票や主治医との面談を行い方針を確認し家族、施設、医療が協力して行っている。 ・看取り時期は「一人にしない、させない」を基本にし、ご家族にもご本人の傍にいてもらい泊まり込みで協力してもらっている。	前回の外部評価から3名をお見送りしています。見慣れた光景と仲間の声、職員のあたたかい手がすぐ届く馴染みの場所で、限られた時間を家族とともに愛おしみながら過ごし、終の棲家としての責務を職員、医療関係者、家族が一丸となって支え、全うしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・感染医院、防災委員が主となり、応急手当マニュアル作りを行い、いつでも対応出来る様にしている。 ・施設長、管理者、看護師には、時間外でも連絡がとれ、指示を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・3ヶ月に1度の避難訓練を行っている。 ・同じ訓練の中にも、改善点等を一つ一つクリアできている。 ・BCP作成に向けて風水害対策講習、津波被害対策講習のWebに参加している。 ・入居者を要援護者として、地域の住民に認識してもらっている。	法定訓練の他にも3ヶ月に一度避難訓練の機会を持ち、防災委員会を毎月開催しています。河川氾濫による浸水区域に該当し、車いす利用者が半数近くに及ぶ状況ですが、自主防災組織との相互関係が堅固であることは安心材料の一つとなっています。	次の2点を期待します。①夜間想定訓練の実施 ②業務継続計画の周知と運用、継続的な見直し

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その方の生活履歴を把握し、適切な言葉かけを行っている。(方言も含む)</li> <li>・その方のNGワードなど検索して、日々を穏やかに過ごせる様に努めている。</li> <li>・年長者として、適切な敬語で敬意をもって接するように指導している。</li> </ul>	新人研修では倫理綱領をもとに代表者から尊厳について学び、適切な言葉かけや敬語を内部研修に落とし込んで習得しています。また、入居前には家族から、本人が気にしている言葉(容姿に関することなど)を聞き取って、配慮ある言動につなげています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず、本人の希望、又は選択できる様聞いてから実施している。</li> <li>・本人が不快を訴えることが出来るような雰囲気や環境を大切にしている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設としてではなく、その方の自宅に訪問させて頂く姿勢で接している。</li> <li>・自分らしく自分の住まいで過ごしたいという想いで尊重している。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活場面にあわせて、一緒に服選びをおこなっている。</li> <li>・起床時整容、又都度みだしなみを整えている。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の好みを知り、その方にあつた味付けや形態を工夫している。</li> <li>・盛り付け、食器拭き等を手伝ってもらっている。</li> <li>・イベントでは普段より豪華な食事を計画したり、おやつレクは、職員と一緒に作ったりしている。</li> </ul>	重度化による嚥下機能の低下が顕著になり、見守り重視として3食湯煎による提供となりました。食事作りに関われる人も少なくなっていますが、イベントやおやつ作りも含め、おしゃべりしながら一緒に楽しい時間を過ごすことを旨としています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加のある方には、少し量を減らしたり、空腹の訴えがある方には、少し量を多めにしている。</li> <li>・水分摂取では、活動後や折々に提供している。</li> <li>・苦手なものや、アレルギーがあるもの場合は代替の食品を用意している。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食後には必ず口腔ケアを行い、自分では行えない方には仕上げ磨きチェックを行っている。</li> <li>・年に1度、歯科検診を歯科医の協力を得て施設で行っている。</li> </ul>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々の排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレ誘導を行っている。	作業療法士から受けたトイレでの立ち上がり、立位の取り方の指導を排泄介助に活かしています。「自分でできる」状態の継続を目的として、見やすい位置にパッドを設置し、職員の手を借りずに排泄行為が完結できるよう、こまやかな尊厳への配慮もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日30分ほどの体操(呼吸法、腹筋体操)を、行っている。 ・水分摂取をこまめに行っている。 ・下腹部の不快があった場合は温タオルをあて暖和するよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・個々の状態、要望に合わせて声掛けをして、シャワー浴・入浴を行っている。 ・就寝前には、水虫予防の方冷え対策として足浴を行っている。 ・基本的には週2回だが必要な場合と本人の希望等で週3回以上行う事もある。	シャワー浴の人は5名程いて、冬期には十分浴室を暖め、足浴しながら実施しています。拒否する人には日程を変えて対応し、気分よく入れる状況をつくっています。昔の話をしたり歌を歌ったり、職員と一対一の入浴はゆったりとくつろげる時間となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・食後は休憩時間を設けている。 ・活動後に疲れた様子がある時は休息して頂いている。 ・個々に応じた時間に就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の間違いが無い様に、内服時間別に仕切りを使って薬箱の保管、内服時は、本人用カップにセットして2重確認を行っている。 ・下剤は便の状態により調整している。 ・薬の内容をまとめたファイルを個別に作り現場ですぐ確認できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・その方の出来る事、得意な事等を役割として毎日行ってもらう。 ・ゴミ箱作り、新聞たたみ、雑巾縫い窓閉め等々 ・お酒の提供もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・季節や体調に応じて、ドライブなどしている。 ・家族にも本人の希望を把握して頂き外出等協力を得ている。	コロナ禍による運動不足の懸念から、月2回来所する作業療法士の訪問指導により個別の運動を実行しています。季節ごとに降りないドライブへ出かけ、川根まで足をのばした日もあります。また、家族の協力により事業所周辺の散歩やドライブで気分転換を図る人もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診後にコンビニへ寄って、ドリンクを買う事を楽しみにしている方もいる。</li> <li>・外出時には、個人のお金を持って好きなものを購入したり、自分で支払いをして頂いている。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・届いた手紙は本人に渡し読めない場合はこちらで読む事がある。</li> <li>・個々に宛先書きを代筆したり、手紙を出す機会を設けている。</li> <li>・ズームやスマホを利用して家族様との会話ができる様にしている。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室、フロア、浴室、トイレ等の環境整備を行って清潔で明るい空間ですごして頂くように心掛けている。</li> <li>・季節がわかるよう、季節の壁紙作りや季節の花を飾ったりしている。</li> <li>・季節によって日光浴を行っている。</li> </ul>	色紙を貼る、ちぎる、といった利用者ができる作業で四季の壁面を彩っています。新型コロナウイルス感染症の罹患を経験し、換気は常時あかりの窓を開放するとともに、利用者の手洗い・うがい消毒の励行や、職員の1ケア1手洗い消毒を入念におこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トランスホーム、事務所施設全体を自由に行き来していたが、現在は、回数もかなり減っているが、戸外での日向ぼっこや外出をしている。</li> <li>・東西ユニットの行き来は常にできる状況にしている。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家で使用していたタンスや椅子、家族の写真を置いたりして、安心して過ごして頂いている。</li> <li>・表札は自ら手書きして、飾りつけをしている。</li> </ul>	エアコン、カーテン、ベッドが備え付けられ、一人ひとり絵柄の異なる表札に特別感が宿ります。手紙道具一式を持参して友人とやり取りする人や、テレビ鑑賞、荷物の整理整頓に勤しむ人など、プライベートな時間を保障しつつ、こまめな声かけもおこなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手すりを設けたり、トイレ使用時には足台を用意し、各自に合った高さの調整を図る様にしている。</li> <li>・壁に取り付けたてすりを使う事により、居室を移動しやすくしている。</li> </ul>		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295400077		
法人名	あかり株式会社		
事業所名	グループホームあかり 西ユニット		
所在地	静岡県島田市宮川町2349-9		
自己評価作成日	令和5年 10月 31日	評価結果市町村受理日	令和6年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&amp;jrsvsvocd=2295400077-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&amp;jrsvsvocd=2295400077-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年11月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

3年余のコロナ禍は、入居者様の生活の活性化を弱めがちでしたが、その中で日々の体操、リハビリ、レクリエーションに重点を置いてすごしていました。徐々に面会時の接触や、外出が出来てきています。ご家族にも安心感を持ってもらえるように交流会議も再開出来るまでになりました。月2回の作業療法士の個別指導、ケアマネの個別プランの説明も丁寧に行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

通所に始まり地域に密着したサービス開始から15年、運営推進会議は地域代表、家族、医師、行政といったメンバーに支えられ、災害対策における自主防災組織との連携も堅固で、法人が培ってきた家族や地域とのつながりは揺るぎないものとして根付いています。ビジネス用SNSを取入れたことで、利用者の状態変化に応じた危機意識を職員と多職種で共有でき、リスクマネジメントに活かすとともにチームワークにも役立っています。押し寄せる重度化の波に、仲間の声と職員のあたたかい手がすぐ届く馴染みの場所を終の棲家とし、限られた時間を家族と過ごす姿は日常に溶け込んで穏やかでもあります。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員入社時に文書にて伝え共有している。 又、日々の業務の中での振り返りを図っている。 ・指導職員を通じ日々伝える努力をしている。 ・毎月の内部研修でも伝えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に所属し会費納入、回覧板、年2回の防災訓練、公会堂のイベント等に参加している。 ・ホームページ、掲示板などで施設のイベントのお知らせをしたり、近所の商店へ買い物などを日常的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	での説明・講座の依頼には積極的に応じている。 ・車椅子で乗れる介護車両の貸し出しを社共との連携で行っている。 ・介護相談には常に応じている。事業所連絡会には参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域自治会、行政の意見を参考に、改善できるところは行う様に努めている。 ・連携して下さる医師、歯科医師が有り、毎回の出席で提案や意見を頂き参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の担当者とは折々に出向いたりTEL/FAXでの連絡、相談を行っている。運営推進会議への参加、介護相談員の訪問等受けています。 ・ここ数年のコロナ禍の中で情報共有、薬品物品の供給等感染時の対応の指導等		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・基本的に拘束しない理念のもと、研修への参加や個別ケアの実践、拘束感のないケアを行っている。 ・言葉の拘束について、特にゼロを目指す。 ・拘束委員会を3ヶ月毎に実施、職員への周知を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・外部、内部研修を通じて学ぶ機会をつくり、知識向上、レベルアップに努めている。 ・ヒヤリハット報告は積極的に行い未然に防ぐようにしている。 ・職員との面談を通じてストレスチェックを行っている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見人制度」の研修で更に、理解を深める事が必要。後見人への折々に言い、本人の希望や現況を伝え本人の心の安定に繋がる話し合いをする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時にわかりやすい言葉を使用して説明を行い、署名を頂いている。 ・家族カンファ時にも、不明点などを聞き、都度説明を行っている。 ・重要事項変更の折は全ての家族に説明をし、署名を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議を開き、全員のご家族にお知らせしご意見を伺うようにしている。 ・一年に一回家族へのアンケートを実施し、意見の把握に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者会議(施設長、管理者) ・ユニット会議 ・個別面談 ・カンファレンス ・グループラインにて全員へのお知らせ、個別な意見の把握を適宜行いオープンな関係づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・資格取得に向けての協力(有給利用、受講費支給)をしている。 ・税理士、社労士の関与により助言等により適切な整備を図るように努めている。 ・適切な内部規定を作成し整備するようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部講師(行政、社協、業者)を招いて職員研修を行っている。 ・定期的な面談や個別相談に柔軟に応じ、希望に添うようにしている。 ・指導者を配置し、ケア方法を職員に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・コロナ禍の影響で実績は少ないが徐々に近隣の施設との交流で、制度や研修、ケアについての情報交換に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・環境に早く慣れていただく為に、ケアプランの目標に沿ったケアを個別に丁寧に行い、「スタッフや利用者との関係を努めている。 ・職員の連携でいつも穏やかに安心できる環境の維持を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族との面談を丁寧に行い、満足いく聞き取りを心掛けている。 ・急変し事故発生時のご家族への連絡方法について確認し、ご家族の安心につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・在宅とのケアマネと連絡を取り、入居前に情報を得るようにしている。 ・本人、ご家族との面会を丁寧に聞き取り、又ケアマネの情報と合わせ十分なアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活者としての視点で、その方のじょくじ作りや洗濯量等を一緒に行う事で、共同生活の一員として過ごしてもらうよう工夫している。 ・一日も早くなじみの関係になれるように、常に寄り添うケアに努めている。。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人とご家族様の間にあるものを理解しながら、体調不良や受診時に家族と連絡を密に取っている。 ・ご家族と主治医との関係を大切にしている。 ・看護師とケアマネが中心となり主治医と情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ユニット同士の利用者との活動もあり、同じ町内だった方との交流をしたりしている。 ・昔の地域の産業(木材)の写真、かつての大井川の写真などを飾り話題づくりに寄代している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士のコミュニケーションの為に、レクリエーションや生活の作業を職員も一緒に行っている。 ・コミュニケーションの様子を把握し、孤立しがちな方への個別ケアに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院や移転先への情報提供を行い支援している。 ・亡くなられたご家族の通夜、葬儀に伺い、共にお見送りさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ユニット会議などを活用し本人の一言一言を傾聴し実現化している。 ・個別ケアとして外出をできるだけ実施している。 ・利用者様本人が自らの思いを訴えに事務所へ来ることもある。 ・事務所を含め本人の個別な訴えをしっかりと		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・できるだけ細かな聞き取りでアセスメントを行い、把握するよう努めている。 ・家族の面家事、ラインでの連絡時に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・現状維持の為に活性化を前向きに働きかける様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員一人一人からの利用者様の問題点、課題点を指導者よりあげてユニット会議内のカンファレンスにて確認を行い、介護計画を作成し、枚葉を共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日常に申し送り、カンファレンスの実施で職員間の共有を深めている。 ・業務ノートなどの活用もしている。 ・現場からの情報を密に行い計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・日光浴、外出、工作、行事等の工夫をしている。 ・体操、マッサージ、足浴、リハビリなどで浮腫や筋力低下の予防などの個別ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・作業療法士の受け入れ、潤いのある生活を目指している。 ・コロナ感染の状況が落ち着いた場合は、ボランティアの受け入れを計画していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・看護師2名非常勤で配置している。 ・島田市の医療機関との関係も連絡票を用いて連携を図っている。 ・基本は家族受診だが、事情によって受診の代行は行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・平日9:00～13:00まで看護師に医療的処置の指導を得られる体制を作っている。 ・緊急的な場合は連絡が取れる同意を得ている。 ・医療機関との連絡も連絡票を用いて連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時情報提供票を用いて、病院のMSWを通じて支援できるようにしている。 ・受診時には連絡票を用いて連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・連絡票や主治医との面談を行い方針を確認し家族、施設、医療が協力して行っている。 ・看取り時期は「一人にしない、させない」を基本にし、ご家族にもご本人の傍にいてもらい泊まり込みで協力してもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・感染医院、防災委員が主となり、応急手当マニュアル作りを行い、いつでも対応出来る様にしている。 ・施設長、管理者、看護師には、時間外でも連絡がとれ、指示を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・3ヶ月に1度の避難訓練を行っている。 ・同じ訓練の中にも、改善点等を一つ一つクリアできている。 ・BCP作成に向けて風水害対策講習、津波被害対策講習のWebに参加している。 ・入居者を要援護者として、地域の住民に認識してもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その方の生活履歴を把握し、適切な言葉かけを行っている。(方言も含む)</li> <li>・その方のNGワードなど検索して、日々を穏やかに過ごせる様に努めている。</li> <li>・年長者として、適切な敬語で敬意をもって接するように指導している。</li> </ul>		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず、本人の希望、又は選択できる様聞いてから実施している。</li> <li>・本人が不快を訴えることが出来るような雰囲気大切にしている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設としてではなく、その方の自宅に訪問させて頂く姿勢で接している。</li> <li>・自分らしく自分の住みいで過ごしたいという想いで尊重している。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活場面にあわせて、一緒に服選びをおこなっている。</li> <li>・起床時整容、又都度みだしなみを整えている。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の好みを知り、その方にあつた味付けや形態を工夫している。</li> <li>・盛り付け、食器拭き等を手伝ってもらっている。</li> <li>・イベントでは普段より豪華な食事を計画したり、おやつレクは、職員と一緒に作ったりしている。</li> </ul>		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加のある方には、少し量を減らしたり、空腹の訴えがある方には、少し量を多めにしている。</li> <li>・水分摂取では、活動後や折々に提供している。</li> <li>・苦手なものや、アレルギーがあるもの場合は代替の食品を用意している。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食後には必ず口腔ケアを行い、自分では行えない方には仕上げ磨きチェックを行っている。</li> <li>・年に1度、歯科検診を歯科医の協力を得て施設で行っている。</li> </ul>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々の排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日30分ほどの体操(呼吸法、腹筋体操)を行っている。 ・水分摂取をこまめに行っている。 ・下腹部の不快があった場合は温タオルをあて暖和するよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・個々の状態、要望に合わせて声掛けをして、シャワー浴・入浴を行っている。 ・就寝前には、水虫予防の方冷え対策として足浴を行っている。 ・基本的には週2回だが必要な場合と本人の希望等で週3回以上行う事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・食後は休息時間を設けている。 ・活動後に疲れた様子がある時は休息して頂いている。 ・個々に応じた時間に就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の間違いが無い様に、内服時間別に仕切りを使って薬箱の保管、内服時は、本人用カップにセットして2重確認を行っている。 ・下剤は便の状態により調整している。 ・薬の内容をまとめたファイルを個別に作り現場ですぐ確認できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・その方の出来る事、得意な事等を役割として毎日行ってもらう。 ・ゴミ箱作り、新聞たたみ、雑巾縫い窓閉め等々 ・お酒の提供もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・季節や体調に応じて、ドライブなどしている。 ・家族にも本人の希望を把握して頂き外出等協力を得ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・受診後にコンビニへ寄って、ドリンクを買う事を楽しみにしている方もいる。 ・外出時には、個人のお金を持って好きなものを購入したり、自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・届いた手紙は本人に渡し読めない場合はこちらで読む事がある。 ・個々に宛先書きを代筆したり、手紙を出す機会を設けている。 ・ズームやスマホを利用して家族様との会話ができる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室、フロア、浴室、トイレ等の環境整備を行って清潔で明るい空間ですごして頂くように心掛けている。 ・季節がわかるよう、季節の壁紙作りや季節の花を飾ったりしている。 ・季節によって日光浴を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トランスホーム、事務所施設全体を自由に行き来していたが、現在は、回数もかなり減っているが、戸外での日向ぼっこや外出をしている。 ・東西ユニットの行き来は常にできる状況にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家で使用していたタンスや椅子、家族の写真を置いたりして、安心して過ごして頂いている。 ・表札は自ら手書きして、飾りつけをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりを設けたり、トイレ使用時には足台を用意し、各自に合った高さの調整を図る様にしている。 ・壁に取り付けたてすりを使う事により、居室を移動しやすくしている。		